

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4795600024		
法人名	医療法人 守礼の会		
事業所名	グループホーム あまね		
所在地	沖縄県南城市玉城字屋嘉部455番1		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	令和4年4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4795600024-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和4年 2月 8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは自然に囲まれたのどかな環境に立地されております。施設からは東シナ海が見え、天気の良い時には外のベンチに座り、海を眺めながら気持ち良く過ごしていただいております。今年度もコロナ禍の影響もあり感染拡大防止に努め、面会制限や外出の機会に制限が続きました。当事業所内でできる事業運営として、第一に、感染拡大予防に努め、利用者一人ひとりの健康を維持することを優先に取り組みました。介護職員の日頃の観察やケア、医療機関との連携体制により、利用者の皆さんの健康を維持することが出来ております。また、社会交流の一環として、WEBや動画を活用したり、南城市のホームページへの行事企画の発信や、認知症を理解する普及活動の一環として参加した活動報告など、事業所内での取り組みを新しい方法で発信、実践しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人が運営主体として開所し、7年を経過した。立地環境は、見晴らしの良い高台に位置している。建物前には広い敷地があり、ベンチが設置され利用者のくつろぎ空間として活用している。設置時に作成された理念は、事業所名称を取り入れ、地域密着型サービスの意義を踏まえたわかりやすい表現である。入職時、毎朝のミーティング等機会あるごとに職員で読み合わせることににより、周知が図られている。理念の実行方法が具体的に定められていることから、職員の行動化へとつながっている。業務の質向上に向けて、運営推進会議の議事録、日々の業務記録、マニュアル等文書管理を徹底し、職員の情報共有、ケアの標準化に向けた実践に反映している。職員の就業環境整備の向上について、管理者は本体法人と話し合いを重ね、資格取得の奨励・業務評価と報酬への反映について取り組み改善し、働きやすい環境整備を行っている。地域との関係性維持・向上について、市の開催する事業への参画・市内事業所の活用・コロナ禍でのオンライン活用等、多様な社会資源を活用することにより地域密着型サービスの機能向上を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職時のオリエンテーションで事業所理念を説明している。毎朝のミーティングでは、理念とその実行方法を唱和し、理念に基づいた介護の実践に努めている。また、ミーティングの中で、管理者は理念の実行方法に沿った良い事例については、職員へ紹介し、具体的な例として周知できるように心がけている。	開所時に作成した理念は、立ち上げメンバーでもある現管理者を中心に作成された。事業所の名称を活用したわかりやすい表現で、毎朝のミーティングで唱和している。同時に理念の実行方法も明示され、唱和も行っており、職員各自の意識的な行動を促している。管理者は、職員への伝達方法を工夫し、個々の職員の理解を深める取り組みを行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	南城市内のEM玉城牧場乳業より、牛乳の配達を依頼したり、JA農協の移動販売を依頼して豆腐や卵の購入など、定期的に来所していただき食材は地元の業者を活用している。また、事業所の裏にある地域の方から無農薬野菜をいただいたり、自治会に加入し、広報誌から地域の活動で参加できそうな情報があれば収集している。	住宅地から奥まった見晴らしの良い立地環境の為、意図的に地域の社会資源活用を目指している。市内の事業者へ訪問販売を依頼し、定期的な来所に繋げたり、食材も可能な限り地元の事業所から購入する事により、地域との繋がりを深めている。隣家の方から無農薬野菜の差入れがあり、良好な関係を保持し、自治会へも加入し、地域の活動に可能な範囲内で参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症高齢者の介護の困りごとや、相談など電話や来所された方への対応について、問い合わせがあれば随時、行っている。居宅介護支援事業所のケアマネや地域包括支援センターの職員からも問い合わせがあり、認知症高齢者の介護実践から学んだことや経験したことなどから助言や情報提供を行った。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度も新型コロナウイルスの感染拡大防止のため面会制限が続き、書面での開催でした。意見を吸い上げるために、LINEを活用したり、ご家族に来所の予定があればその際に意見の提出を求める。地域包括支援センターの意見は窓口で時間を設けていただき、直接受ける等、意見の集約方法に工夫し、たくさんの意見を受け、面会について期間限定で一部解除しました。	コロナ禍での運営推進会議の開催について、議事録・開催案内文書を工夫し運営状況の報告を実施している。報告を基に利用者家族・地域包括支援センター・知見者等の意見を収集し、次回開催の文書に掲載することにより情報共有を図っている。又、収集した意見について、迅速に対応し報告をすることにより運営の質の向上を実施している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の申請や、生活保護の方の書類の手続き等を行う際に、地域包括支援センターへ足を運ぶ機会があり、その際には地域の実情等について情報交換を行うように心がけている。介護の日のイベントでは、利用者が贈呈した季節の手工芸が市役所の掲示コーナーで飾られ場を和ませていた。	併設しているディサービス管理者が、市のボランティアとして研修講師登録を行っている。市開催認知症サポーター養成講座に講師として関わり、意見交換を行う機会として活用している。又、介護の日イベントについて、毎年参画している。制限があるコロナ禍での開催では、利用者の作品を展示することで参加機会を創出し、協力関係を深めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には建物内の鍵の施錠はせず、オープンにしている。定期的に身体拘束について、学ぶ機会を設け、職員は身体拘束をしないケアの実践に日々、努めている。現在、要介護5、体動が激しい方のみ転落の危険性があるため四つ柵の使用とリクライニング車椅子では安全面を考慮し安全ベルトを使用している。一部解除も試みたが解除は危険性が高く難しいと判断。	昨年度の外部評価を受けて、身体拘束をしないケアについて、職員一人一人の知識技術の向上を目標に掲げている。定期的に職員勉強会を開催し、オンラインで開催された外部研修に参加することにより知識を深める取り組みを実施した。年に2回「虐待の芽」チェックリストに取り組み、職員個々の介護を振り返る機会としている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止については、定期的に、学ぶ機会を設け、日頃のケアの実践に努めているが、保険者へ虐待に対する通報があったとのことで、8月に実態調査があった。その後、「虐待はない」との結果を受けたが、改善すべき点もあり、速やかに全職員を対象に高齢者虐待に対する研修会を実施。学びを深め、事業所内での虐待防止に努めている。	保険者への虐待通報について、訪問調査・結果報告を受けて、改善計画を策定・報告まで、迅速に対応した。改善策として、オンライン研修に全職員が参加し、学ぶ機会を設けた。研修後、職員間で話し合う場を設けることにより、これまでの取り組みの見直し、改善策の策定、実施と介護ケアの向上を図る機会と捉えて実践している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前から生活保護受給者2名の財産管理について成年後見制度について支援していたが、前に進まずにいた。ご家族の協力により、1名は成年後見制度を活用できるようになった。もう1名は、入退院のきっかけでご家族も検討中。保険者である生活保護の担当を交え活用について支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に入所申込書を受け取っており、空きがあった場合は、介護の状況を確認しながら入所の案内を行っている。入所契約時には、ご本人、ご家族の意向を聞かせて頂き、契約書と重要事項説明書を用いてサービスの内容を説明している。説明の途中、途中に利用者やご家族に疑問や不明な点などがないかを確認することで理解して頂けるように心がけている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者の方との会話から意見や要望を聞いている。ご家族は、コロナ禍で面会制限があるため、利用者の生活の様子が見えるようにLINEを活用し、写真や動画で報告しながら意見や要望を聞けるように工夫している。また、定期的に開催される運営推進会議の議事録を郵送し、返信をしていただくことでご家族の意見を吸い上げ、運営に反映できるように努力している。	運営推進会議議事録には、収集した利用者家族の意見が掲載され、コロナ禍での面会制限中、運営推進会議開催案内には活動報告の写真や文書等で、利用者の情報を発信している。面会制限下においては、LINE等のツールを活用し、情報発信や交流に活用し、蔓延防止解除中は、玄関先での窓越し面会を実施し、利用者・家族の要望を叶える取り組みを行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人の役員が毎月、顔を出し、利用者や職員へピザやアップルパイ、食材などの差入れを持って来所され、利用者や職員から意見を聞く機会を設けている。「焼き肉会をしたい。」という要望に「楽しい企画はどんどんやりなさい。」と職員を激励。3年ぶりに敬老会を企画し、盛り上がった。管理者は職員から意見を受け、1時間の休憩時間を確保できるように業務時間を整備した。	法人本体と距離のある本事業所であるが、法人事務長や役員等は、折に触れ手土産を持参して事業所を訪問し、職員や利用者の状況を聞き取りしている。食欲低下がみられる利用者に対して、利用者の好物を聞き取り差し入れを行った。管理者は、毎月法人の運営委員会に参加し、事業所の課題や職員の意見を報告している。管理者は職員の相談しやすい、意見を反映しやすい環境を整備している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	コロナ禍の影響もあり、感染を懸念して退職する職員もいたり、家族内での濃厚接触者による出勤停止などが相次ぎ、出勤できる職員に負担が偏る中、今年度、管理者は、職員個々の努力や勤務状況による評価をさせていただけるようになった。職員の頑張りを評価し、下半期より、全員、昇給、賞与もあり、労働条件の整備にも努めた。	管理者は、法人本体に対して、コロナ禍での職員の勤務状況を報告し、職員の負担軽減と、貢献度による評価を実施し、報酬に反映できた。各職員の資格取得に向けた支援を実施している。新たに2名の職員が介護福祉士資格を取得した。認知症実践研修の受講も奨励し、職員のキャリアアップを支援している。ストレスチェックの実施、年2回程度の懇親会の開催、年休取得等、職場環境の整備を図っている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の影響で事業所の集合研修は、高齢者虐待防止と褥瘡予防の研修会の2回のみ実施。その他は、職員個々に自分の時間でWEBを活用した勉強会に参加できるよう、随時、外部の研修案内を掲示板に掲示し、研修会の情報を提供した。自主的に研修会の機会があれば参加するように周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会として、WEBを活用し、他事業所の取り組みを知る機会を設けた。吉本〜では、高齢者と一緒にできる手遊びやレクリエーションに参加。日本各地の高齢者施設との交流の機会となり、職員の刺激になった。また、災害研修では、実際、九州豪雨で被災されたグループホームの管理者の報告を受け、災害対策の必要性を学びました。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症があっても、できるだけ、在宅での生活を長く過ごすことができるように、ご家族の介護を支援しながら併設している認知症デイサービスの利用や当事業所のショートステイ利用をさせていただき、日頃から顔なじみびの関係づくりを行っている。その甲斐もあり、サービスを導入する段階では、ご本人の混乱が少ないように感じています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前から、ご家族の困っている事や不安に思われていること、ご本人に対する思いや意向などを聞かせて頂き、丁寧な対応を心がけることで信頼関係が築けるように努めている。コロナ禍の影響もあり面会に制限がありますが、LINEの写真や動画を活用し状況を報告したり、当事業所の運営状況がわかるように運営推進会議の資料を郵送。返信を依頼している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話や来所された方から入所相談があった場合には、生活の中で困っていることを情報収集し、適切な情報が提供できるように幅広い視点で相談の内容を整理し、対応ができるように努めている。必要に応じて、地域包括支援センターの地区担当や主任介護支援専門員へ内容の状況を報告し、対応を依頼している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者一人ひとりができる能力の把握に努めている。女性の入居者が多いため家事動作から役割づくりを検討し、一緒に洗濯物たたみや、テーブル拭き、おやつ作りを行ったり、共同生活の中で利用者間と笑ったり、励まし合ったりと喜怒哀楽を分かち合える関係を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者一人ひとりの家族構成を把握し、キーパーソンのみではなく、他の親類関係に対しても、来所された際には、利用者の生活の様子や体調面を報告したり、できるだけ写真を撮り、足を運びやすい事業所であるように配慮している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の影響で、面会制限や外出制限があるも、WEBを活用し、社協の各公民館で開催している体操動画を通して、各地域のなじみの人や場所への親しみを深めた。WEBで1週間開催された南城市の行事、なんじょうまつりへ参加。動画でも知人や友人を探し、懐かしみ関係性が途切れないように支援に努めた。	市内の事業所JAあじまあ号による訪問販売を実施し、利用者に買い物を楽しむ機会を提供し、馴染みの関係維持を支援している。コロナ禍でオンライン開催となったなんじょうまつりに、事業所内で参加し、映像を通してなじみの場所・人との関係性の維持を支援した。社協が各公民館で実施している体操教室の動画配信も活用し、コロナ禍でも様々な工夫を図っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの好きなことや嫌なこと、性格、人間関係などを把握するように努め、共同の場所では利用者間の関係性を把握し、座る位置の考慮や空間づくりに工夫している。関係性が悪い場合は、職員が間に入るなど配慮しているが、状況に応じ、距離感を配慮したり、席換えをしたり、孤立しないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用を終了したご家族に対しても、連絡があればその都度、状況に合わせ情報提供を行ったり対応をしている。看取りでサービスが終了になったご家族から、いつものように野菜を届けたいけど迷惑かな…?と相談があり、今後も遠慮なく足を運んでいただけるよう伝え、関係性を断ち切らないように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から利用者一人ひとりとのコミュニケーションを多く取るように意識し、会話の中での意向の把握ができるように努めている。言語障害があり、会話が難しい方に対しては、表情や反応、行動などから個々の希望を察することができるよう努めたり、職員間の情報を共有している。	利用者との対話を重視した介護を実践している。対話の中で、個々の利用者の思いや意向を把握している。介護度が高くなり、言語コミュニケーションの難しい利用者については、非言語の表出を観察し、意向の把握を行っている。把握した思いや意向について、職員間で共有するために、記録に残す工夫を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前から、ご本人、ご家族からこれまでの生活歴を聞かせていただき情報収集に努めている。また、日常会話の中で得た本人、ご家族からの情報などを収集し、生活に関する意向、やりたいことなどの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の利用者一人ひとりの生活リズムや心身の状態を観察し、いつもと違うこと(意欲の低下、感情不安定など)があれば、職員間の情報交換の場、朝、夕の送りなど、随時、対応策や改善策などを話し合い共有し、状況変化に応じた支援につなげるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	できるかぎりご本人の言葉を介護計画に入れるように意識している。また、面会制限があるため訪問診療等の関係者が来所される機会に合わせ担当者会議を開催するようにしている。その際に主治医、薬剤師、歯科医など専門職の意見を反映し、現状に合ったケアができるようにしている。	多職種参加のために、薬剤師・訪問歯科・訪問医師の来所日に合わせて担当者会議を設定し、意見の収集を図っている。管理者は、オンライン開催のケアマネジメント研修に参加し、基準改正等に伴う情報収集を行い、介護計画作成に反映している。各職員は、収集した情報を業務日誌への記載やリーダーへの口頭報告を行い、介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員はシフト勤務になるため一人ひとりのその日の生活状況が次のケアにつなげられるように観察し、個人記録に記載。情報共有ができるようにしている。また、訪問診療、訪問看護の際には、医療との連携記録記録を別ファイルにすることで、職員間の情報共有がしやすいように工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生み出されるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域の方からの要望があったグループホームでの短期入所の利用について、体制が整ったため、ニーズに応じて感染対策をしながら必要時には短期入所の受入れを実施している。認知症高齢者を地域の中で見守る応援団の普及活動として開催されたオレンジガーデンに参加。活動の写真を提供し、各地域での活動報告に紹介され普及活動の一端を担った。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入所前に利用していた農協スーパーでの買い物を楽しめる機会として、JAあじまあ号に来所していただいている。また、地元のEM牛乳を配達していただいたり、利用者の誕生日会には、市内の製菓店からスポンジケーキを購入し、皆でケーキトッピングを楽しんでいる。地域の資源を活用することで地域貢献にも務めている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療医に定期的に来所していただき利用者の健康管理に努めている。日頃から、毎週木曜日に来所する訪問看護との健康管理についての情報交換を行っており、訪問診療の際には、主治医と生活状況の情報共有を図るようにしている。健康面や身体面での状況変化があった場合は写真や映像などを活用し、適切な医療が受けられるように早めの対応している。	利用者全員、月1回訪問診療を利用し、事業所は、主治医へ口頭での説明だけでなく、写真や動画の記録を活用するなど状態報告の工夫を行っている。週1回、訪問看護が健康状態の確認をし、多職種間で適宜、情報共有を行っている。整形外科や皮膚科など専門医への受診は、家族へ協力依頼しているが、不穏など状態に応じて管理者が通院同行の対応を行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	委託先の訪問看護ステーションの看護師は毎週1回は訪問し、利用者の生活の様子や健康面の情報を共有している。また、夜間や休日の利用者の急変時には電話や、メール等の画像を活用し、見える情報交換の中で適切な助言を受け対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	当事業所、訪問看護、主治医との協働により、できるかぎり事業所内で受けられる治療は当事業所で受けることができている。骨折により入院治療が必要な場合には、主治医から入院する医療機関へ診療情報提供を行い、入院が長期化しないように退院に向けての連絡調整を適宜行い、情報の共有や連携が取れている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の担当者会議の中で、医師を含め全利用者、ご家族へ重度化した場合や看取りに関しての意思確認を行っているが、その時、その時の状況に合わせてご家族の意思確認も再度、確認している。ちょっとした利用者の変化にも速やかな医療機関との協力体制ができ、ご家族へ報告、対応に努めているためご家族も安心されている。	重度化や看取りについて、入居時や状態変化など必要に応じて、医師を含め利用者、家族へ意思確認を行い、同意を得ている。終末期の利用者には、家族と過ごせる機会を多く持てる様に、コロナ感染予防対策を図り、出入り口付近の部屋を確保するなど配慮している。また訪問診療、訪問看護など医療関係者より病状の説明や助言等あり、職員への不安軽減が図られている。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	24時間、365日、利用者の急変や事故発生時に備えて、速やかに対応できるように職員間でのグループラインを活用している。医療機関との体制も整備されているため、何かあった場合には、訪問看護、訪問診療の医師の指示を受け対応に努めている。	利用者の急変時や事故発生時、職員間や医療機関との連絡体制や適切な対応が出来るようマニュアルを作成している。体調不良など前兆の見たれたら、早めに医療機関へ連絡調整し、急変の回避を行っている。事故発生時は、1日内で早期に緊急ミーティングを開催し、事故の分析や対策の徹底を図り、その後、運営推進会議で事故報告を行い、改善策を明確にしている。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	消防署の協力を得て、実践力を身につけるため年2回3月、9月に防災訓練を実施している。9月には夜間を想定した避難訓練を実施。コロナ禍の影響で、地域と合同の災害避難訓練は実施することができなかった。火災、地震、水害等の災害研修や、感染症の予防やまん延防止に関しては、職員個々の時間でWEBを活用し、学んだ。	年2回、昼夜想定した避難訓練を実施し、避難経路や避難所などの確認、実践力を身に付けている。災害に備えた非常用食料を3日分程確保し、普段より調理に活用している。また台風時、2日間停電した経験を踏まえ、自家発電機設置の検討を進めている。感染症対策においては、指針やマニュアル整備、研修の実施有り、また週1回、法人の感染症対策委員会会議の報告を受け、情報共有している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対しての言葉使いや接し方については、職員オリエンテーションの資料を活用し、周知したり、適宜、アンケートを実施し、気づきの機会を設けている。また、WEBでコミュニケーションの取り方の動画を見ていただいたり、意識した対応ができるように適切な対応方法を動画を視聴していただき実践に活かしている。	親しみを込めていても、不適切な言葉遣いに繋がらない様に、利用者へ敬意を持って接することを心掛けている。職員はオンライン研修やオリエンテーションの資料、虐待チェックシートを活用し、気づきの機会へ参加することで、日頃の支援を振り返り、見直し確認を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から利用者とコミュニケーションを取れるように心がけ、利用者の希望や要望が聴けるように配慮している。毎朝の活動では、日付の確認を行い、その日の新聞記事の読み聞かせから話を膨らませ、思いや希望を聞いたり、季節からやりたいことを聞いたり働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	健康で楽しく暮らしが送れるように身体を動かす機会を設けている。その日の気分や体調で自室で過ごされたい方もいらっしゃるの、どうしたいか聞いて、本人に任せている。自室では、ラジオを聴いたりして過ごす方もいますが、ほとんどの方が声かけで午前や午後の活動に自主的に参加している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、整容を実施。出来ない方は蒸しタオルを用意し、職員が整容を手伝っている。髪が伸びてきた利用者に対し、要望があれば散髪している。お正月前には、美容師による散髪の希望を募り、依頼した。母の日には、マニキュアや化粧を楽しんだ。日頃は、好みの衣類と一緒に洋服を選んだり援助している。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好について、本人に聞いたり、ご家族に聞いたり、日頃から把握に努めるようにしている。調理の下ごしらえは、個々の能力に合わせて行っていたが、コロナ禍の影響、感染対策や、利用者の重度化もあり、誕生日のケーキのトッピングを行い楽しんでいる。	食事は職員が月末に献立を作成し、事業所で3食調理している。材料は近隣のスーパーや毎週火曜日の移動スーパーより購入し、近隣の農家や家族より定期的に旬な野菜や果物の差し入れもある。利用者と一緒に梅酢やムーチーなど作る工程の楽しみも大切にしている。現在、コロナウィルス感染拡大防止の為、職員は離れた場所で同じ食事を摂る様に配慮している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康面を考慮し、毎日の食事や水分の摂取量を確認、記録を行っている。特にたんぱく質を多く摂れるように毎日、豆腐を取り入れ献立の工夫をしたり、地元のEM牛乳や豆乳を取り入れている。また、便秘になったり、水分が少ない利用者に関しては一日分の水分を準備し、脱水にならないように水分管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施。嫌がる方に対しては、時間を置いて再度、声かけをしたり対応している。出来るだけご本人に歯磨きを行ってもらい出来ない方は職員がガーゼ、歯間ブラシでのケア仕上げ磨きを行っている。定期的に訪問歯科医、衛生士の訪問があり、口腔内のケアを実施。口腔内の不具合に関しては速やかに連携をとり対応している		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンや尿漏れの量の把握を行うように努め、出来る限り日中はトイレでの排泄を援助している。日中と夜間の尿パットの使い分けをしたり、夜間は尿量に合わせ、尿パットやオムツの選定を行い対応。一律にトイレ誘導をするのではなく、本人の訴えや状況から排泄を察し、排泄援助ができるように努めている。	排泄の自立に向け、個々の排泄パターンや習慣の把握を行い、出来る限り日中はトイレでの排泄支援を実施している。訴えが出来ない利用者へはタイミングを大切に、配慮した声掛け工夫を行っている。「孫の結婚式へ参列したい」という目標に対し、排泄の訓練計画を実施し、その後、リハビリパンツから布パンツへの変更、トイレでの排泄が出来る様になった事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日課の中で運動の機会を設けているが、運動だけでは限界があり、便秘をさせない環境づくりとして、地元のEM牛乳を取り入れ自家製の飲むヨーグルトを作り摂取していただいている。また、胃腸の調子を整える目的でオリーブオイルや米油などを調理の際に使用。3日以上排便がない方を把握し、主治医の指示を受け下剤を服用していただき便秘予防している。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の頻度は本人に任せているが、基本は週3回の入浴で清潔と保湿を保って頂いている。排便失敗があった時は、その都度、入浴を行い清潔にして頂いている。浴室では安全面を考慮しシャワーチェアに座って頂きシャワー浴を実施。座位が保てない利用者に対しては、安全に入浴できるように2名で対応している。	入浴は週3回を基本に、本人の意向に沿って対応出来る様にしている。入浴は同性対応で、浴室・脱衣場内の温度差に注意し、快適で安全な環境への配慮を行っている。入居前、拒否による入浴実施が困難だった利用者に対し、無理強いをせず、足湯や皮膚の処置など誘導のタイミング、声掛けの工夫を続け、現在はスムーズに入浴実施できている事例がある。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所時の面談で、在宅でのご本人の生活習慣をご家族から聞かせていただいたり情報収集を把握することで、入所後の生活リズムを比較しながら居心地の良い環境づくりを支援している。眠れない時には話を聞いたり、黒糖湯など温かい飲み物を飲んで頂いたり、個々に合わせ安心できるように努めている。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医が処方した服薬情報をいつでも確認、把握できるように服薬説明書をファイルにまとめ設置している。また、主治医との情報交換書を作成し、定期受診日には情報交換をしている。処方の変更になった場合や、いつもと違う状況、変化があれば、副作用を確認したり薬剤師、主治医に相談して経過を見たり、早めの対応で悪化予防をしている。	薬剤管理にて居宅療養管理指導を導入している。訪問診療後に薬剤師が配薬し、夜勤者が1日分ずつセッティングしている。与薬前、利用者と名前、日付を読み上げ、薬を飲みこむまでその場を離れず確認し、誤薬、落薬防止を徹底している。薬の変更や体調の変動時など医療関係者へ早めに相談や指導を受け、体調不良の悪化を防止している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、利用者一人ひとりの興味があることや好きな事の把握に努めたり、これまでの生活歴や個人の好きな事を情報収集し、共同生活の中で役割を持っていたけように工夫している。外出や交流に制限があるためYouTubeを活用し、気分転換で動物や赤ちゃん、子ども達の動画を見て楽しんでいる。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の影響で外出や交流に制限があるためTV動画を活用し、各地域の動画を楽しんでいる。ご家族から面会の連絡があった場合は、窓越し面会ではあるが、おしゃれをして面会している。天気の良い日には、玄関ホールまで散歩し、ベンチで体操をしたり外の空気に触れる機会を設けている。	天候に合わせて、玄関口のベンチに腰掛けラジオ体操の実施や事業所前の駐車場スペースの散歩など外気浴を楽しんでいる。先日、沖縄行事ムーチャーに合わせ、施設周辺にある月桃の葉を歩いて摘み出ている。コロナ感染者急増に伴い、ドライブや買い物などの外出は自粛中だが、馴染みの地域の動画視聴や窓越し面会を工夫し、生活の活性化に繋げている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、お小遣い程度のお金をご家族から預かり事務所で管理している。買い物をする楽しみとして、職員と一緒に食材を買いに玄関ホールまで出ていたが、現在は、職員が購入を行っている。おこずかい帳で収支を把握できるように支援している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日頃からご家族や、親戚、友人などの訪問も多い。ご本人から電話をかけて要望があった場合には、職員が電話をかけご本人に代わり会話ができるように支援している。また、利用者から手紙を書きたいと要望があった場合は便せんや切手を準備し、手紙を書いていただき、ご家族に郵送する支援をしている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は、年中、快適に過ごせるように冷暖房を設置している。トイレ周りの尿失禁や、食後の食べこぼしなど、床の汚れはその都度、サッと掃除ができるようにハイターモップを設置し臭いがこもらないように即対応している。また、作業療法として、手工芸(花や絵、飾りなど)を取り入れ季節感を感じられるように居室内の工夫をしている。	共用空間は、利用者と職員が共同で作成した花や絵が飾られ、季節感が味わえるように工夫している。「あまねがんじゅうロード」と称された廊下には、南城市の昔の懐かしい写真を貼り、共有の話題が楽しめるコミュニケーションのツールとして、また皆で考えて体操が出来る様に、手順などを掲示し、体を動かす機会が持てる多目的な場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では、コロナの感染予防のため距離感を保ち、対面には顔が見えるように透明の亚克力板を使用。利用者同士の会話を楽しんでいる。また、個室になるトイレ内は壁画で居心地良く工夫したり、元気になるような言葉を目につくように貼りだしている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れたものは居室に持ち込んで使用している。衣類等については最小限にして頂き、必要に応じて衣類の入替え等をご家族に持ってきて頂いたり、家族との交流の機会を設けている。また、手工芸の時間に作った作品や利用者皆で作った誕生日のプレゼント等を各自居室に飾ったりと部屋づくりをしている。	全部屋洋室で、電動ベッド、収納タンス、エアコンが備え付けられている。馴染みのある家具や寝具、写真など持ち込みがあり、安心して過ごせる環境作りを工夫している。湿気が高い土地柄の為、衣類や家具類は最小限で依頼し、家族との交流も兼ね、衣替えなど入れ替えの機会を設けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は、バリアフリー設計で段差がほとんどない。各居室に設置してある電動ベッドは、一人ひとりの動き易さに合わせベッドの位置を工夫し、設置している。部屋の入口は、間違わずに部屋に戻れるように個々に合わせ、ご住所を表示したり、カーテンにお花のアップリケを付けたりと工夫している。また、トイレや浴室は、入口がわかりやすいように大きな字で表示、案内している。		

目標達成計画

作成日: 令和4年4月20日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4(3)	コロナ禍での運営推進会議については、文書による開催とし、月初めに議事録をご家族、推進委員へ郵送しており、議事録に対する意見は、FAXやLINE、メール等から返信を受け、意見の集約を行い、業務改善等に活かしている。文書による会議開催になる以前までは、運営会議資料は冊子式になっており、表紙が式次第で、開催日時、参加者、議題をまとめていた。郵送するにあたり、書類が多くなる為、式次第を省いた。その結果、運営会議資料に関して、送付した日付や、誰に送ったのか？等が第三者にわかりにくくなっている。	運営会議資料、議事録は、第三者でもわかりやすいように記録の整備を実施すると共に、議事録を活用し、外部からの意見をまとめ、事業運営に活かす。	記録もれがないように会議資料や議事録の形式を作り、まとめる。(日時、参加者、特に委員の氏名は漏れないようにする。)	6ヶ月
2	1(1) 13	職員の質の向上を目的とした勉強会や研修への参加について、コロナ禍の影響により、集合で開催することが出来ず、前年度に引き続き、職員個々の自由な時間でできるWEBを活用した勉強会へ変更した。長期にわたり、集合研修や、勉強会の機会が激減したことで、職員間の個別ケアに関する考え方や、仕事に関する考え方、価値観の共有などをする機会が減り、毎日その場しのぎの対応でやり過ごしているという現状や、悪いことではないが、何に対しても業務時間内で終結したいという風潮、自己研鑽の意識の低さも見受けられる。	理念と、その実行方法を意識し、利用者一人ひとりの尊厳を心がけながら、居心地のいい生活環境づくりに努める。	認知症高齢者のケアに関しては、職員一人ひとりが常に自己研鑽の意識を持ち続け、個別ケアにあたることが重要。入職時、個々に実施しているオリエンテーション資料の読み合わせを定期的に全職員で行い、理念や考え方を共有したり、認知症高齢者のケアについて再確認や勉強会、研修会など参加する機会を設け、職員間で共有することにより、専門職としての意識、役割を再認識し、利用者一人ひとりに寄り添ったケアの実践に活かす。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。